

テーマ展

## 麗しの雅楽器



12/8(金)  
1/8(月・祝)

筆築  
銘梅薫丸

当館蔵

京都・仁和寺門跡の御物で、門跡に仕える坊官の長尾家に代々伝来したという筆築。室町時代の作とされる古管で、「梅薫丸」の銘が付けられています。筆築を納める家（管筒）と家を納める箱は、楽器よりも後に作られたものです。家には、たわわに実る梅の木を金銀の高時絵で描き、要は螺鈿で鶴丸紋とします。また、箱の蓋裏には、『源氏物語』早蕨の巻所収の和歌、袖ふれし 梅はかわらぬ匂にて ねこめうつろふ 宿やことなる を書き付けています。この和歌は、光源氏の息子薫が、紅梅の香によって亡き思人の大君を追憶し詠んだもの。家の装飾と箱の和歌と、いずれもが銘の「梅薫丸」に因んだものになっています。楽器やそれを納める箱などの装飾には、しばしば銘に関連する意匠が取り入れられました。

展覧会  
情報

テーマ展

麗しの雅楽器

12月8日  
1月8日

テーマ展

彦根藩主井伊家の印章

1月11日  
2月6日

特別公開

雛と雛道具

2月9日  
3月6日

テーマ展

柳桜をこぎませせて  
— 柳と桜のデザイン —

3月10日  
4月10日



展示案内

12月～3月

● 常設展示 ●  
”ほんもの”の出会い

—彦根藩井伊家伝来の大名道具を中心に八〇点あまりを展示—



テーマ展 展示室1

12/8 (金) ～ 1/8 (月・祝)

### 麗しの雅楽器

雅楽器とは、日本を代表する伝統音楽、雅楽で用いられる楽器のことです。古く由緒ある作品や、楽器として優れた作品には、しばしば銘と呼ばれる愛称が付けられ、さらに色鮮やかな裂の袋や精緻な蒔絵の箱に納めて、愛玩されてきました。

作品を収納するこれらの袋や箱もまた、見所のひとつです。工芸美の粋を凝らした、華やかな雅楽器の世界をご堪能ください。



箏楽銘玉笹

#### ◎ギャラリートーク◎

■日時 12月9日(土) 11時～、14時  
■講師 茨木恵美(当館学芸員)

テーマ展 展示室1

1/11 (木) ～ 2/6 (火)

### 彦根藩主井伊家の印章

彦根藩主井伊家の当主が使用していた印章は、現在七百顆余りが伝存し、当館の所蔵となっています。残念なことにこれらは、大正十二年(一九二二)の関東大震災で罹災し、当初の端正な佇まいを失ったことにより、ほとんど展示される機会がありませんでした。

本展は、当主の名や号、中国の四書五経や詩文の文言など、印章に刻まれた多様な印文に注目してこれら印章を紹介し、併せて、その全容を初めて公開するものです。



印章

#### ◎ギャラリートーク◎

■日時 1月13日(土) 11時～、14時  
■講師 高木文恵(当館学芸員)

特別公開 展示室1

2/9 (金) ～ 3/6 (火)

### 雛と雛道具

江戸時代、大名家では、姫君の婚礼の際に、調度や雛道具などの道具一式を調べて持参する慣わしがありました。安政五年(一八五八)、井伊家十三代直弼の息女弥千代(二八四六～一九二七)が、高松藩松平家世子頼聡に嫁いだ際にも、大揃えの婚礼調度とともに雛と雛道具が調えられました。

本展では、弥千代の雛と雛道具を、地元の旧家に伝来した古今雛や御殿飾りとともに一挙公開します。春を寿ぐ華やかな飾りをご覧ください。



弥千代の雛道具

#### ◎ギャラリートーク◎

■日時 2月10日(土) 11時～、14時  
■講師 奥田晶子(当館学芸員)

テーマ展 展示室1

3/10 (土) ～ 4/10 (火)

### 柳桜をこきまぜて

—柳と桜のデザイン—

見渡せば柳桜をこきまぜて 都ぞ春の錦なりける—素性法師が詠んだ和歌にあるように、柳と桜は、春を彩る花木として長くイメージされてきました。

本展では、華やぐ満開の桜やしなやかに枝垂れる柳をあらわした絵画や工芸品などを紹介します。展示室で緑り広げられる柳と桜の競演をお楽しみください。



柳時絵料紙箱



桜図 狩野水岳筆 個人蔵

#### ◎ギャラリートーク◎

■日時 3月10日(土) 11時～、14時  
■講師 高木文恵(当館学芸員)

# 金亀玉鶴



## 直弼、花押作成の工夫

中世から近世にかけての古文書には、しばしば花押が書かれます。花押とは、その人のサインであり、自分が書いた証拠として、書状などに記されます。花押は、自分の名前の漢字や別に選んだ漢字、図案などを元にして、一部分をデフォルメしたり、部分部分を合体させたりすることで、その人独自の形に作り上げられています。

さて、彦根藩井伊家文書の中に、井伊家十三代直弼が花押を推敲する過程で使ったと思われる書付があります（写真1）。右上に直弼が号とした「柳王」と「直弼」の字が書かれています。「長」「言」「桃舎」の字もあるので、直弼の国学の師であり、側近でもあった長野義言の影響を受けているかもしれません（桃舎は長野の号）。

どのように字を花押らしい形に変えていくのか、一例を見てみましょう。一番右下の花押の案(①)に注目してください。この上方やや左に「言」の字がありますが、この花押は、「言」の真ん中の短い二本の横線を一本にし、下の「口」の部分の大きさを大きくした形としてとらえられ

ます。②の花押などは、この傾向をさらに強調して、かつ「口」の下の横線を左右に突き出した形になっています。江戸時代の花押によくある、天地に横線を配置する形（写真2）に、近づけようとした工夫と考えられます。

さて、この書付には、他にも工夫が見られます。それは、二つの漢字を用いて別の漢字を選び出す、反切という方法です。この書付の右上、「柳」(RYU)と「王」(OU)の下に「切」と書かれています。これは反切を行っていることを示しており、RY + OUによって新たに RYOU という音を得て、その音に合致する漢字



写真1 井伊直弼花押草案

「良」の字が書かれています。このように、二つの漢字から、一方の最初の子音と、もう一方の最初の母音以下をつなぎ合わせて、新たな音をつくり、その音の字を選ぶ、という方法が反切です。

「直」(CHOKU)「弼」(HISU)からも同様にして「秩」(CHITSU)の字を得ています。注目したいのは、ここではもうひとつひねり加えて、「秩」(CHITSU)と「良」(RYOU)から反切によって「長」(CHOU)の字を得るといふ、二段階の反切をしていると思われることです。反切によって花押の元の字を選ぶ例は他にもありますが、二段階の反切をしている例はあまり見かけません。

もともと、直弼が使用した花押は、反切を用いず、「弼」や「柳」の字を変形させたものでした（写真3）。とはいえ、ものごとくに熱中する傾向が強い直弼が、花押を考えると、さまざまな工夫をして試行錯誤していた様子が思い浮かびます。（早川駿治）

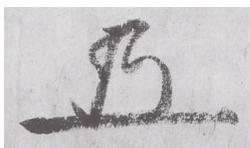


写真2 徳川家康花押



写真3 井伊直弼花押  
（右は「弼」が元の字、左は「柳」が元の字）

## 博物館の正月飾り

年末になると、博物館では能舞台に注連縄と鏡餅を供えて、新たな年を迎える準備をします。また、井伊家当主の甲冑には、太刀と弓を備えた具足飾を施します。これは、武家の正月行事である具足祝に倣ったものです。

新春を彩るめでたい飾りを、この機会に是非ご覧ください。

■期間 1月1日(月・祝)～1月8日(月・祝)



## ◆ 展示替および工事による 休館のお知らせ ◆

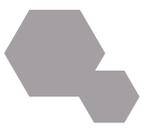
### 【休館】

平成29年12月1日(金)～7日(木)、  
12月25日(月)～31日(日)、  
平成30年2月7日(水)・8日(木)、  
3月9日(金)

### 【一部休室】

平成30年1月9日(火)～2月6日(火)、  
2月9日(金)～28日(水)、  
3月7日(水)・8日(木)

工事の進捗状況により前後する場合があります。その際は、ホームページなどでお知らせします。ご迷惑をおかけしますがよろしくお願いします。



# スケジュール 12月～3月

3月	2月	1月	12月
<p>9金 休館</p> <p>10土 柳桜をこきまぜて —柳と桜のデザイン—</p> <p>テーマ展 柳桜をこきまぜて —柳と桜のデザイン— 3/10～4/10</p> <p>3/7、8 展示替により一部休室</p>	<p>17土 知的美術探訪 —日本美術の銘と号—</p> <p>11日 開館記念日</p> <p>10土 雑と雑道具</p> <p>7水・8木 休館</p> <p>4日 彦根藩の歴史 まるわかり直虎と井伊家歴代当主</p> <p>3土 入門講座</p> <p>特別公開 雑と雑道具 2/9～3/6</p> <p>常設展示 2/9～28 展示替および工事により一部休室</p>	<p>13土 彦根藩主井伊家の印章</p> <p>テーマ展 彦根藩主井伊家の印章 1/11～2/6</p> <p>“ほんもの”との出会い 1/9～2/6 展示替および工事により一部休室</p>	<p>1金～7木 休館</p> <p>9土 麗しの雅楽器</p> <p>25月～31日 休館</p> <p>テーマ展 麗しの雅楽器 12/8～1/8</p>

## 催し

### ● 入門講座 ●

#### 彦根藩の歴史

まるわかり 直虎と井伊家歴代当主

今回の講座では、NHK大河ドラマ「おんな城主 直虎」でとりあげられた井伊直虎、そして彦根藩の歴代当主について、それぞれの事績、人柄、時代背景などから、当主それぞれの治世をわかりやすく紹介します。

#### ■日時・内容

2月3日(土) 13時30分～16時

第1講「直虎・初代直政・二代直孝・三代直澄」 (渡辺恒一)

第2講「四代直興・五代直通・六代直恒・七代直惟」 (早川駿治)

2月4日(日) 13時30分～16時

第3講「八代直定・九代直禎・十代直幸・十一代直中」 (蔭山兼治)

第4講「十二代直亮・十三代直弼・十四代直憲」 (太田黒真美)

会場 当館講堂

定員 60名

資料代 400円

申込

往復はがき往信の裏面に住所・氏名・電話番号を、復信の宛名面に住所・氏名を明記の上、「入門講座係」までお申し込みください(1人につき1通)。彦根城博物館ホームページからも申し込みできます(応募多数の場合は抽選)。

申込期間

12月1日(金)～1月4日(木) 必着



井伊家歴代画像

### ● 美術講座 ●

#### 知的美術探訪 —日本美術の銘と号—

日本美術の銘と号、すなわち、作品に付けられる「名」についてとりあげます。茶道具につけられる銘はよく知られています。が、雅楽器の銘の歴史はそれより遡ります。一方、刀剣では、その名を、銘ではなく「号」で表すのが一般的です。本講座では、雅楽器茶道具、刀剣、それぞれにおける銘や号について紹介します。

#### 第3講 「刀剣の号」(千古幡昇子)

会場 当館講堂

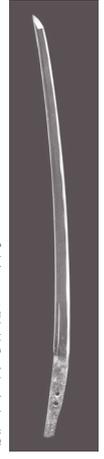
定員 50名

資料代 200円

\*1講のみの受講の場合も同額

申込 当日受付

(先着順)



小太刀 銘友成(号君万感)



古瀬戸肩衝茶入 銘夏山



彦根城を世界遺産に  
彦根城はユネスコの世界遺産暫定リストに登録されており、世界遺産をめざしています。

編集・発行

## 彦根城博物館

〒522-0061

滋賀県彦根市金亀町1番1号

TEL 0749(22)6100

FAX 0749(22)6520

http://hikone-castle-museum.jp/



この印刷物は8000部作成し、印刷単価は7円です。